桐生鉾座（きりゅうほこざ）

明治初期製の荘厳な祇園屋台と鉾を常設展示
「素戔嗚尊（スサノオノミコト）」生人形も見守る多目的ホール

桐生の夏を象徴する桐生八木節まつり。その「動」の核・八木節おどりに対し、明暦2年（1656）を起源に370年の歴史を有し「静」の核として伝統を伝える「桐生祇園祭」の歴史と気概を季節問わず味わえるのが、本町四丁目自治会所有の祇園屋台と鉾を常設展示し、これらを舞台として活用できる多目的ホールの役割も併せ持つ「桐生鉾座」だ。

鉾座は平成12年（2000）4月に地元商店街が中心となり「あーとほーる鉾座」の名で開業。桐生祇園祭の天王番を輪番で担う本町一～六丁目（惣六町）がそれぞれ幕末から昭和初期にかけて揃えた「祇園屋台」と本町三・四丁目が保有する「鉾」のうち、明治2年（1869）製の「四丁目祇園屋台」と、鉾としては関東最大級の9m余りの高さを誇る明治8年（1875）製の「四丁目鉾」（しちょうめほこ）を常設展示する。後者は生人形師・松本喜三郎による作品で3500万円の評価額がメディアで示され話題を呼んだ「素戔嗚尊」（スサノオノミコト）の生人形が最上部に立つことで知られ、その現物も間近で見学できる。

祇園屋台や鉾の随所に施された、往時の桐生の隆盛を物語る豪華絢爛な装飾なども、鉾座ではまつり期間外でも見学可能。屋台と鉾は興趣ある舞台にもなり、各種講演や演芸会等の会場としても重宝されるなど、全国的にも珍しいロケーションを持つユニークな「ホール」としての機能も特筆される。

当施設は現在「桐生鉾座」として、本町四丁目自治会（坂入勝自治会長）が所有・管理する。今年4月に自治会の土蔵から発見され話題となった、四丁目の大幟（おおのぼり）を飾る獅子の木鼻彫刻2基も、今後は鉾座で展示・公開される見通しだ。荘厳な屋台や鉾の趣とともに桐生祇園の伝統を語り継ぐ鉾座に、新たな「歴史の証人」が加わった。

【桐生鉾座】
●住所／桐生市本町4-328
（見学は事前に要予約）
●見学予約・問合先／
0277-44-5921
（美喜仁 本店）